



レインボーネット Rainbow Net

れいんぼー Topics



希望郷いわてオープン卓球バレー全国交流大会 「オープン卓球バレー全国交流大会」で金メダル!



謹賀新年 会員及び関係機関の皆様、新年あけましておめでとうございます。旧年中はいろいろとお世話になりました。本年も変わらぬご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

平成28年10月に行われました第16回全国障害者スポーツ大会において、オープン競技の卓球バレー(わんこクラス)に出場した宮古市身体障害者福祉会チームが、みごと金メダルを獲得するという、輝かしい成績を残しました。

昨年はオリンピックイヤーで、日本の選手もさまざまな競技で金メダルラッシュとなりました。感動と興奮のオリンピック直後、圏域では台風10号により甚大な被害を受けるという出来事も起きました。そのような状況の中行われた希望郷いわて大会でしたが、競技に参加された皆様の活躍と宮古市身体障害者福祉会チームの金メダルは、明るい話題を提供してくれたと思います。日々の練習の成果の賜物ですね…。金メダルを持って報告に来てくれた監督の笑顔が忘れられません。(文責・五十嵐)

目次 CONTENTS

●れいんぼーTopics	1	●はあとふるズームイン「地活センター」	8~9
●年頭にあって	2	●Essay・虹の架け橋	10
●県からの委託事業への取り組み	3	●はあとふるVoice「当事者の声」	11
●ザ・自立支援協議会	4~5	●なんでもKEIJIBAN	
●宮古圏域・ふくし現場からのレポート	6~7	編集後記	12

ふつうはいいな

二〇一七年の初めに

特定非営利活動法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット 会長 刈屋 裕之



平成二十九年という新しい一年が始まります。

ご挨拶の前に、昨年八月・九月の二度の台風、水害によって被害を受けられました多くの皆様に心からお見舞い申し上げます。

さて、本年が昨年より、一昨年よりもっともっと皆様にとりまして、より良いところへ向かう分岐点となる一年でありますようにと願って止みません。

平成二十八年という年は、残念ながらそう成り得なかったと感じています。

年度初めの四月より「障害者差別解消法」が施行されました

が、地域の多くの方達は、その意味も理解できず、法令の発布すら知りませんでした。

そんな中、相模原市「津久井やまゆり園」で発したあの、眼を、耳を覆いたくなるような、凄惨な事件に多くの人が衝撃を受け、泪したことでしよう。

共に手を携えて、地域で生活しなければと訴えているその最中のことでした。



そんな中で、私たちNPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネットが旧年中に実施しました多くの相談・事業は、たくさんの方達の援助となり、地域とのふれあいのきっかけとなっていたと信じて活動してきました。

圏域各地区で開催しました地域懇談会でのたくさんの方々の参加の方々の、尽きることはないお話。宮古市末広町商店街の皆様のご援助の中で開催された「はあとふるフェスタ」参加者の笑顔。継続して当地を訪れては歌い続けて下さっている「あんべ光俊」さんへの拍手。宮古市・山田町にはるばる来訪いただいた

ている「ピュアハート」の皆さんの演奏にとともに感じた悦び。そして、それぞれの刻に居合わせ下された多くの方達の声援、その一つひとつをもっと増やして行きたいものと考えています。

終わりに、この文章をお読みいただいた皆様にお願いたします。今後ますます当レインボウネットの活動に深いご理解と、あたたかいご支援をいただきますように。

そして、日々一所懸命に駆け廻るようにして頑張っている職員の皆に拍手を、そして大きな声援を送っていただきますように。

県からの委託事業への取り組み

岩手県地域生活支援 広域調整会議等事業



特定非営利活動法人
宮古圏域障がい者福祉推進ネット

相談支援専門員

澤田 勝

精神障害者地域生活
支援広域調整会議等事

業（別名く地域委員会）は、精神障がい者の地域生活への移行に向けた支援、地域生活を継続するための支援を関係機関が広域で調整しながら連携できる体制を地域に作ることを目的としている。

宮古圏域では地域移行支援事業を使い、毎年4〜5名が着実に地域生活を送っている。今年度は昨年からの更新者2名がすでに終了し、新たな対象者3名を支援中である。その他に、勉強会として、東海大学の吉川隆博准教授を招き、平成30年の報酬改定に向けた国の最新情報等について勉強会を開いた。その中で精神科病院の改革における話題は今後の地域移行支援の在り方を変えるのではないかと思われた。また、厚労省が主催した地域移行に関する研修の情報共有を図った。圏域の課題解決に向け、これからも関係機関と協働し具体的な取り組みの協議をしていきたい。

高次脳機能障がい者 支援普及事業を受託して



特定非営利活動法人
宮古圏域障がい者福祉推進ネット

事務局次長 五十嵐 純子

宮古圏域障がい者福祉推進
ネットでは、高次脳機能障がい者

支援普及事業を岩手県より受託し、高次脳機能障がいへの正しい理解の促進と、その普及啓発のための取り組みを行っています。内容は家族教室や関係機関の連絡会の開催、研修会の実施としており、高次脳機能障がいに対する理解を深めようとするものです。

高次脳機能障がいは、交通事故などによる脳の外傷や、脳梗塞・脳出血などの脳血管疾患など、さまざまな原因による脳の損傷によって生じるもので、いつ誰の身に起きても不思議ではない障がいと言われており、外見上では分かりにくいため周囲の理解を得られにくいとも言われております。

11月に行った家族教室では、スポーツを通して楽しいひとときを共有したことで、当事者・ご家族の皆様の率直な想いを聴き、貴重な時間を共有できたことを今後の取り組みの中に生かし、障がいの理解促進に努めていきたいと思っております。



ザ・自立支援協議会

これまでの活動を振り返って

実務担当者会議

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 事務局次長・五十嵐純子

坂下昌利氏

(宮古市保健福祉部福祉課 副主幹兼障がい福祉係長)

本年度の実務担当者会議では、「計画相談支援等の実務について」「地域移行希望者リストの活用について」等について、議事(報告・協議)として取り上げてまいりました。

また、4月より障害者差別解消法が施行され、障害者差別解消支援地域協議会の設置につきましても、前年度に引き続き議論を重ね、権利擁護部会との意



実務担当者会議

見交換も行ってまいりました。

平成28年は、社会福祉施設等における利用者の安全確保対策がクローズアップされた1年であり、また、障害者差別解消法の施行により、障がい者支援に関する課題を多く感じました1年でもありました。

私は、二十数年振りに福祉担当課に戻り、本年度からの委員として会議に参加しております。

今後圏域の関係者や事業者の皆様からご指導をいただきながら、会議での議論が利用者の皆様のより良い支援につながるよう、圏域の課題解決に向けた議論を積み重ね、障がい福祉施策の充実を図ってまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いたします。

権利擁護部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・平野千代野

杉山健太氏

(法テラス宮古法律事務所 弁護士)

本年度、当部会は、平成28年4月に施行された「障害者差別解消法」を主なテーマにして活動しました。

7月に開催した権利擁護セミナーのテーマとした他、地域での差別解



権利擁護部会

消に向けた取り組みの中核として新設される地域協議会のあり方について、圏域の市町村を順次訪問しながら意見交換を重ねました。

差別解消に向けた取り組みにあたっては、教育関係者や商工業者など、これまで部会として関わりの乏しかった分野の関係者との連携も重要になるところ、いかに関わっていくか、部会の役割も重要になってくると思います。

なお、私事ではありますが、平成

23年1月からの法テラス宮古での任期を終え、今年度中に後任の者に引き継ぐことになりました。知識も経験もほとんど無い状態から、ここまで部会員や関係者の皆様に育てて頂きました。

これからも、権利擁護部会が、そこに関わる方々にとって良い研鑽の場となるよう、皆様のご支援をお願い致します。

生活支援部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・吉田比呂恵

佐間山 智氏

(宮古恵風支援学校 教諭)

今年度より自立支援協議会に委員として参加しています。生活支援部会は、相談支援・就労支援の二つの視点から、宮古地域の現状や課題についてテーマをもちながら活動しています。地域懇談会では、実践報告やグループワークを通じ、当事者のみなさんの夢の実現に向けて皆さんで考えています。宮古地区の懇談会では、昨年を上回る参加で、「自分のお店を持ちたい」「介護の仕事がしたい」など未来を担う素敵な夢の実現に向けて実りある話ができました。



生活支援部会

また、スキルアップセミナーは、宮古圏域が抱える大きな課題である重症心身障がいについて学ぶ取り組みを継続しています。

就労支援の取り組みとしては、B型事業所へのアンケート調査を通して現状や課題の把握に努め、2月にはチャレンジドフォーラムを開催予定ですが、様々な課題が多いのですが、一つ一つの問題をブれることなく、協議しながら、よりよい宮古を作っていきたいと考えています。

精神保健部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・澤田勝)

小成 祐介氏

(社団医療法人親和会 宮古山口病院 地域生活支援室長)

昨年より精神保健部会の担当をさせて頂いていただいています。

病院の看護師として過去に退院支援については、院内の支援で完結することに力を注いでいました。しかし、せっかく退院をしても地域での生活で苦労されるケースが多いことから、支援は院内に限らず地域でも行う必要性を実感しました。そして、病院内外を自由に行き来する役割を得て、活動をする事となりました。

地域で活動することで、地域の団体・事業所とのつながりが出来はじめ、連携の基盤ができました。改めて、自分の活動を客観的に見ると、今や地域移行・地域定着は基本であり、宮古圏域ではその活動が多方面で活発になっていました。そこに、福祉と医療の連携は必須であり、今後の支援の要になると確認しています。

福祉と医療、地域と病院が連携することで、誰もが安心して暮らせる地域が出来上がると信じています。誰かが多くの役割を担い誰かが何もしないのではなく、より良い地域であるためには何より連携・協働が必要です。その役割を担うのが精神保健部会であると思います。



精神保健部会

発達支援部会

(事務局 宮古圏域障がい者福祉推進ネット)
担当 相談支援専門員・高屋敷大助)

吉田 敦氏

(岩手県宮古児童相談所 児童心理司)

発達支援部会は、レインボーネットの中では後発で、しかも途中で東北地方太平洋沖地震もあったため、活動がまだ圏域で知られているとはなかなかいえないところですが、発達支援部会の対象である児童期はどの人も必ず通ってくる道です。また、昨今の「児童虐待」「セルフエスティーム」「レジリエンス」等々のトピックでこの時期の重要性が指摘されることは多く、一方ではこの時期は「自

分で十分に身の安全を守る」とか「自分で自分をほめてあげる」とかということは難しい時期でもあり、適切な支援と支持が必要です。

発達支援部会では、「子どもの就学に向けての支援シート(通称『PASS』)」を発定して間もないあたりに作成し、主に幼児から小学生の移行期の支援に役立ててもらおうように働きかけていますが、趣旨としては、「その子の、弱みだけでない、得意なこと、興味、持ち味といったことを地域で共有して、その後の健やかな育ちや自律につながって欲しい」ということで、成人、老年に至るまでの連携した支援となることを望んでいます。



発達支援部会

現場からのレポート

Report 1

台風10号の被害から今



松山荘 施設長
中村 光一

8月30日の台風10号による当荘の

水害につきましては、早々と圏域の関係者の皆様から多大なるご支援と激励を賜りましたこと、改めて深く感謝申し上げます。

ご存知の通り、当荘の被害は相当大きいものでありましたが、幸いにも利用者の皆様が全員無事であったことが、一番の喜びであります。

被災から3ヶ月を経過しましたが、当荘利用者の皆様におきましては、未だ同法人他施設と山田町の「陸中青少年の家」、そして宮古市内の病院にご協力を頂き、生活を継続しています。

現在、当荘の修繕工事が始まっているところですが、修繕の完了まで今しばらく時間がかかります。

当荘の修繕が完了し、利用者の皆様が無事に帰荘できることを楽しみに、職員一同力をあわせていく所存です。

簡単ではございますが、お礼かたがた、被災後の近況をご報告いたします。



特定非営利活動法人
きぼうハウス 施設長
池原 真理子

今回の台風10号で

きぼうハウスを軸とし、約3kmにわたり甚大な被害が出ました。当事業所で作業をしている老人保健施設に隣接のグループホームで9名の死者が出た事に驚きを隠せませんでした。当日から施設利用者の安否確認を行い全員の無事を確認しましたが、3名程の方が自宅の被害を受けました。また動揺を隠せないでいる利用者も多く悪路の中通所利用送迎を始めました。職員個々で利用者の心のケアを行い、また作業の確保をし現在に至っております。

今回の災害に対し事前から情報を収集し、また迅速な職員対応があり、現在利用者が安心して通所作業できております。改めて災害が起きた時のマニュアル等を考えていかなければならないと感じました。



岩泉町社会福祉協議会
いずみの里 管理者
佐々木 利明

台風10号において被災されました方々、

事業所様にお見舞い申し上げます。

当施設は、無事でしたが利用者や職員の自宅など浸水や流失の被害を受けました。職員で手分けし安否確認に走り、4日目にやっと全員無事を確認する事ができました。

しかし、販売委託をお願いしていた店舗も軒並み被災し、内職作業をいただいていた工場も流木に埋まり途方に迷いました。

作業は出来なくとも仲間と会えるいつもの場所を提供しようと1週間後から開所し、2週間目には道路が開通したことでみんなが集まる事が出来ました。1ヶ月が経ち空き学校で工場が仕事を再開し、いずみの里にも仕事をいただけるようになりました。また、他の科もネットワークの力もあり商品の注文や応援をいただいております。

この災害で何より、同じ福祉事業所等からの迅速な行動には感謝では表せないほどの気持ちでいっぱいです。災害から間もなく孤立状態の岩泉へ、山を越え危険をかえりみず支援物資を届けにきてくれました。支援いただいた各事業所様からは、災害に啞然としていた私達に連携の絆と大きな力をいただきました。

岩泉町の復興にはまだ時間が必要ですが、私たちは、笑顔でにぎやかな、このいずみの里で一歩ずつ前に進みたいと思います。





宮古圏域・ふくし



指導訓練室①

Report2

地域の社会資源の紹介



児童発達支援
管理責任者
加藤 恭子

当事業所は平成24年5月に岩手県の事業指定を受け、翌年5月から民家を借り上げ事業を開始しました。施設的には利用者増によって十分な活動スペースが確保できないことや、老朽化による安全性への配慮が

ら新たに施設を建設し、平成28年12月から新設場所にて再出発しました。施設内には、事務室兼相談室、指導訓練室①②、静養室、トイレ（肢体不自由児対応）、脱衣室、洗面所等の部屋を設け、利用者の方が明るく、そして楽しく過ごせるよう部屋ごとにカラフルな色を入れました。

放課後等デイサービス事業所

ゆうやけ

現在、小学4年生から高校3年生までの15名の方が利用しています。利用者の方がゆうやけで過ごす時間を「楽しい」と感じられるよう、様々な企画を考え提供しています。長期休業中には、季節ごとの行事（流しそうめん、クリスマス会等）を楽しんだり、公園やシーアリーナ、カラオケ等にも出かけています。利用者の方が毎日、笑顔で過ごせるよう保護者の方や各機関と連携し、支援していきたいと思っておりますので、今後もどうぞよろしくお願いたします。

ち かつ 「地活センター」



に、自立の促進、生活の改善、身体機能の維持向上、社会との交流の促進を目的に、創作的な活動、SST(社会生活技能訓練)・との連携強化のための調整、ボランティアの育成、障がいに対する理解促進を図るための普及啓発事業を実施しています。

はあとふるフェスタ2016

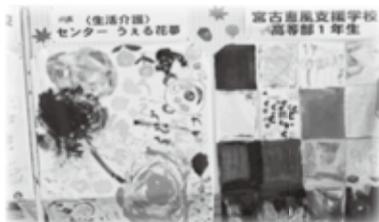
今 年度も10月23日にはあとふるフェスタを開催しました。台風10号の影響を受け、

1日みの開催となりましたが当日は快晴、たくさんの方々に足を運んでいただきました。

昨年引き続きくえがこう：それぞれの想いをテーマに、旗作りに取り組みましたが、今年度は、事業所毎グループで取り組み、大きな旗を商店街に飾り、一層華やかなフェスタになりました。

華やかな旗が並ぶ中、お祭り広場では今回初登場の射的を設け、主に小さなお子さんに楽しんでいただきました。あそびの広場では昭和の遊び、缶ポックリや竹馬、竹とんぼを作り、世代を超えて夢中に遊ぶ姿が見られました。またステージコーナーも設け、昨年に引き続き障がい者当事者グループみやコナツツガールのフラ(ダンス)、らんぶらあすの音楽の他、今回初めて「秋の空を積み上げ大会」を開催し、ペアで空缶を積み上げ高さを競いました。制限時間内に順調に積み上げるペア、なかなか積み上げられないペア、風に倒されてしまったペアもいて、見ている方々からも大きな歓声が上がリ、盛り上がりを見せていました。

短い時間ではありましたが、その日参加された皆様の笑顔が印象的でした。ご協力くださった皆様、ありがとうございました。



フェスタ会場を華やかにしてくれた旗♪



盛り上がったステージコーナー♪

はあとふるフェスタ2016に参加した方の感想

- ◆フラ(ダンス)を見たりヨーヨー釣りをしたり、楽しかったです。
- ◆人がたくさんいて賑やかで楽しかったです。



フェスタ会場の様子♪



はあとふるズームイン!!

「地域活動支援センターみやこ」では、障がい者等(身体障がい者、知的障がい者、精神障がい者、障がい児及び難病等)を対象ピアカウンセリング等の活動、各種サークル活動を行っています。また、専門の職員を配置し、医療・福祉および地域の社会基盤

「地域活動支援センターみやこ」活動紹介

即興からだアートパフォーマンス

東

日本大震災から5年以上の月日が経ちましたが、心の支援は今も続いています。震災後毎年秋に、法政大学准教授・越部清美先生がお越しになり、即興ダンスの指導をしてくださっています。今年度は昨年11月6日に開催し、思いのままのダンスを楽しみました。

始めは緊張がほぐれるよう音楽に合わせて自由に歩き、目があった人とハイタッチ！緊張がほぐれてくると先生の動きをまねていた参加者も、徐々にオリジナルの動きを見せ、抵抗なく楽しむ姿が見られました。また、風船を使い落とさないように体を動かしたり、人間生け花にも挑戦しました。1人1人が1つの花となり、自由な発想で花になりきってポーズ、1人2人と生けていき、大きな生け花が完成しました。のびる紐を使うこのダンスでは、リーダーシップをとる参加者もいて、普段とは違った一面を見せよい刺激となったようです。

参加者の意外な発想に驚かされながらも、自由に楽しい時間を過ごすことができました。



人間生け花♪



紐ダンス!!



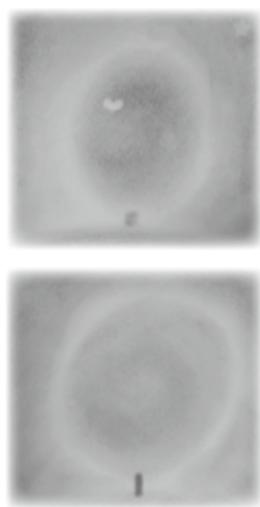
風船を落とさないように～♪

表現活動

パステルアート

今

年度の表現活動では講師をお招きし「パステルアート」にもチャレンジしました。講師は斎藤綾乃先生！パステルを粉状にして指で描いていく手法で、参加されたほとんどの方が初挑戦でしたが、手軽に楽しく描くことができました。柔らかな色、曲線に癒され、完成した作品を満足そうに眺めている参加者が多くいました。



完成した作品

斎藤綾乃先生より

初めてパステルアートに触れた方ばかりでしたが、皆さん本当に楽しんでくれました。抵抗なく取り組み、和気あいあいでの雰囲気もとても良かったです。楽しかったとの感想も聞けてうれしかったです。また、呼んでくださいね。

エッセイ Essay・虹の架け橋

ボブ・ディラン氏の『風に吹かれて』

みちのく療育園 施設長 伊東 宗行



今年のノーベル賞文学賞は予想外の受賞といわれています。日本の村上春樹氏も期待されて

いましたが、アメリカのミュージシャンのボブ・ディラン氏（75歳）が選ばれ、世界中から注目されました。彼については知識のなかった私は新聞等のメディア情報をたどってみました。代表的な曲目は1963年発表の『風に吹かれて』であるという、その歌詞（和訳）を新聞で読み、この歌詞に秘められた彼の心情を思いめぐらしました。

♪
 どれだけの道を歩いたら
 一人前の男として認められるのか？
 いくつの海をとびこしたら
 白いハトは砂でやすらぐことができるのか？

何回弾丸の雨が降ったなら、
 武器は永遠に禁止されるのか？

そのこたえは、
 友達よ、
 風に舞っている

こたえは風に舞っている

この歌詞は英語が原作なのでその意味を正しく理解はできませんが、私の独断的な理解を許していただくならば、

「人として認められるには限らない努力を尽くさなければならぬし、こころ休まる平和な道は遠く、何時になるだろうか？」

武器、弾丸で多数の犠牲者を出す戦争はいつまで続くのだろうか？

その答えは風が舞う、人の心が動かし社会の変容（世論）が順風・逆風となつて吹き続けて行く。

友達よ、共にこの世の風に吹かれながら信ずる道を歩もうではないか

と語りかけているのではないのでしょうか。

終章の「共に…信ずる道を歩もう」と

いう表現は私の個人的な思いを付け足したもので、彼の意図するところではないかも知れません。（誤解であれば、原作者の彼には御赦しを願います）
 ボブ・ディラン氏がこの歌を公開した1963年（昭和38年）は私が医大を卒業後、1年間のインターン（医学実地修練）を修了し、医師としての第一歩を踏み出した記念すべき年でもありました。彼の存在を知らずに新人小児科医師として診療一途に県内を飛び歩いていた頃で、交流のあった人びとを懐かしく思い出しております。



はあとある Voice (当事者の声)

ポエムを通して、元気を届けたい

佐藤 啓子さん

「勝利の笑顔・・・」

レインボーネットから「ポエムを載せませんか？」とお願いされた時、とてもうれしかったです。グループホーム希望の職員さんと喜びました。

私は、はまなすからグループホームに移って、職員さんの勧めがあつてポエムを書くようになりました。今回2つの作品を紹介したいと思います。

「でっかく・・・」

夢、でっかく、
希望、でっかく
心、でっかく

この「でっかく・・・」は相田みつをさんの詩を読んで、そこからヒントをもらいました。大きな気持ちで頑張つていこう、頑張つてほしいという願いを込めました。



逆境に負けず
常に心からの勝利の
笑顔が強くなる

そして、優しさや、
想いやりの勝利の
イイ笑顔。

この「勝利の笑顔・・・」は震災後に書いたものです。震災の時の職員さんの笑顔を見て感じたことをポエムにしました。

どんなことにも負けず、いつも心の勝利の施設職員さん。施設職員さんのようないい笑顔を持つていたい、感謝しているという気持ちを職員さんに向けた気持ちで書きました。

いろんなことがあつて悩むこともあるけれど家族や職員さんの手を借りながら感謝しながらこれからも頑張つていきたいと思つています。ポエムを通して、家族、職員さん、利用者さん、みんなを元気にしていきたいです。

インタビューコーナー



伊東 大和 さん

○10月に行われた『いわて大会』に陸上で出場しましたね。何の種目で参加しましたか？

・100mと400m 参加しました。二つとも一人で走り切りました。100mの方が得意です。100mのタイムは13秒29で、400mは1分7秒です。競技の時はとても緊張しました。学校の先生と一緒に5日間ほど花巻に滞在して、開会式から閉会式まで参加することができました。

○陸上はいつから始めましたか？どんな練習をしていますか？

・恵風支援学校の高等部2年生から始めました。部活は月に4回程度の練習で、人数は7~8人です。練習には毎回参加しています。練習内容は基礎体力作り、走り込みが多いです。陸上部以外でも練習する機会があります。全

国の選抜メンバーが参加する練習会があり、基礎体力、スタートダッシュの練習など様々です。全国大会を迎えるまでは毎週土日盛岡のふれあいランドや花巻の競技場で練習をして、東北大会の前には強化合宿にも参加しました。朝から夕方までの練習はとても大変だったけど、一緒に練習した人とお話出来たのは楽しかったです。別の大会が近くなったら練習会が開かれるのでまた参加したいと思っています。

○来年の陸上での目標はありますか？

・長距離 (1500m) に挑戦したいです。まだその距離は走ったことはないけど、頑張りたいです。

○将来の夢は何ですか？

・運転免許がとりたいです。スポーツカーが好きなのでインプレッサに乗って一人で仙台までドライブしてみたいです。

※伊東さん、貴重な経験ができましたね。これからもたくさんの方にチャレンジしてください。インタビューにご協力いただき、ありがとうございました。

なんでも KEIJIBAN

平成28年度
高次脳機能障がい者支援普及事業
高次脳機能障がい支援者研修会

当事者の体験から学ぶ、高次脳機能障がいの基本的理解

- 日時 1月25日(水) 13時30分～16時
- 会場 シートピアなど研修ホール
- 内容

第一部・基本的理解について
いわてリハビリテーションセンター
主任ソーシャルワーカー 上田 大介氏
第二部・当事者の体験談



高次脳機能障がい当事者
小林 春彦 氏

- 定員 80名 (参加費無料)
- 対象者 保健、医療、福祉、行政関係、当事者、関心のある方等

精神保健福祉ボランティア
フォーローアップ研修会

精神保健福祉ボランティアの活動に携わっている方や関係機関等を対象に、これまでの活動の振り返りや、今後に向けてより一層充実した活動をめざせるよう学んだり、ボランティア同士の交流を目的として実施いたします。

- 日時 2月8日(水) 13時～15時
- 会場 シートピアなど研修ホール
- 内容

講話「障がいとともに生きる地域づくり」

講師 盛岡ハートネット事務局
黒田 大介氏

当事者家族を交えてフリートーク
「家族の想いと精神保健福祉ボランティアに期待する事」

- 定員 30名程度
- 対象者 精神保健福祉ボランティアの活動に携わっている方、保健師、関係機関等

チャレンジドフォーラム
障がい者就労と
地域の関わりについて考える

チャレンジドフォーラムとは、障がい者が地域で快適に働き・暮らすための啓発活動として毎年実施してきたものです。今回は、宮古圏域の就労継続支援B型事業所のあり方について、支援者それぞれの立場から検証し課題解決に向けたヒントを得ることを目的として実施致します。

- 日時 2月10日(金) 13時～16時
- 会場 休暇村陸中宮古

内容 「障がい者就労と地域の関わりについて考える」
講演 「これからのB型事業所のあり方について」



講師
埼玉県立大学
教授 朝日 雅也 氏

パネルディスカッション
「宮古圏域における就労継続支援B型事業所のあり方について考える」

- 定員 120名

●対象者 就労継続支援B型事業所、福祉関係者、その他関心のある方

「ご支援ありがとうございました！」

東日本大震災後から、高知桜ライオンズクラブ様より毎年たくさんのご支援を頂いております。今年も、支援金と高知県のジューズとお茶を頂きました。12月に開催したクリスマス会で参加者の皆さんにプレゼントいたしました。もうすぐ6年、被災地のことを想い続け温かく支えられていることに、感謝いたします。



「フォーラム・研修会への参加・問い合わせ先」
レインボーネット事務局

TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921

編集後記

新年あけましておめでとう
ございます!!!

昨年は皆さんにとって、どんな一年になりましたか? 県内でも団体が開催されるなど、記念すべき年になった反面大きな台風もあり、被害に遭われて大変な状況の方もまだ沢山いらっしゃると思います。心よりお見舞い申し上げます。

レインボーネットでは、昨年同様様々なイベントやセミナー、懇談会など、開催することが出来ました。沢山の皆様にご参加頂きました。本当に有難うございました。

さて、今年も四年、千支十二支の10番目となる四年は、9番目の千支である申(さる)と11番目の千支である戌(いぬ)との喧嘩を仲裁する為に、猿と犬の間である10番目の千支になったと言われているそうです。やはり平和が一番です!!!
今年一年が笑顔溢れる一年になる様、今年も笑顔いっぱいの方々に会えることを楽しみにしています。どうぞよろしくお願ひします!!!
(緑川)

発行

NPO法人宮古圏域障がい者福祉推進ネット(レインボーネット)
岩手県宮古市緑ヶ丘2番3号
はあとびるセンターみやこ
TEL 0193-64-7878
FAX 0193-77-3921
E-mail info@mjyako-rainbow.com/
URL http://www.mjyako-rainbow.com/
◆発行責任者 会長 刈屋裕之
◆企画・編集
レインボーネット事務局

かい いん ぼ しゅう
会員募集

NPO法人
レインボーネットの活動を
応援してください
募集しています

個人	正会員 1,000円
	賛助会員 500円
団体	正会員 5,000円
	賛助会員 1,000円

会員の種類と年会費
について